

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00934

研究課題名（和文）高精細デジタル画像解析による幕末明治初期ガラス原板写真の史料学研究

研究課題名（英文）Historiographical study of original glass plate photographs from the end of the Edo period and the beginning of the Meiji period based on high-resolution digital image analysis.

研究代表者

谷 昭佳（TANI, AKIYOSHI）

東京大学・史料編纂所・技術専門員

研究者番号：70532670

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、出所・伝来が確かなガラス原板写真からの高精細画像情報と、ガラス原板写真が内包している「もの」としての情報を比較検証した。これにより、オリジナルのガラス原板による厳密な史料比定を行う方法論を確立し、より信憑性の高い歴史資料としての古写真の定義を明確にした。そのうえで、国内外に所在する日本関係のガラス原板写真の高精細デジタル撮影による解析と史料学的な調査・研究を推進した。また写真史料の展示などを実施して、これまでに蓄積してきた研究成果を公開・発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の焼付写真を基にした研究では、作者や制作年の特定、ガラス原板写真からの焼き出し時に失われていた細部の表現や製作や伝来に関する情報を得ることは不可能であった。本研究によりガラス原板から必要な情報を引き出すことが可能となり、古写真を歴史資料として位置づけることができた学術的意義は大きい。研究成果は、港区立郷土歴史館で開催した特別展『日墺修好150周年記念「日本・オーストリア国交のはじまり - 写真家が見た明治初期日本の姿 - 』』（港区教育委員会主催・史料編纂所共催・オーストリア大使館協力）への参画、その他にも新聞や放送番組等でも多数紹介されるなど、広く社会的関心に応えることができた。

研究成果の概要（英文）：In this study, we compared and verified the high-resolution image information from original glass plate photographs whose provenance and transmission are certain, and the information as “objects” contained in the original glass plate photographs. This established a methodology for rigorous historical identification based on original glass plates, and clarified the definition of old photographs as more credible historical materials. Based on the results of this study, we have promoted analysis and historiographical research and investigation using high-resolution digital photography of original glass plates related to Japan, both in Japan and overseas. In addition, we have publicized and disseminated the results of our research by holding exhibitions and study group meetings.

研究分野：写真史

キーワード：写真史 日本史 画像保存 文化財写真 画像史料 史料研究 古写真史料学 古写真

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、これまで国内外に点在する出所・伝来の確かな写真史料の高精細デジタル撮影による調査研究を実施してきた。先行研究では、1869年のオーストリア＝ハンガリー帝国東アジア遠征隊のヴィルヘルム・ブルガーと弟子のミヒャエル・モーザーが日本国内で制作と収集したガラス原板写真を高精細デジタルカメラにより分割撮影することによって、焼付写真では切り取られていて見ることができない周辺部、撮影した写真家本人も見ることができなかった遠景の細部の情報までを再現することに成功し、多くの新知見を得ることができた。人間の眼には見えない短波長の光に感光するコロジオン層の特性と、細かい銀粒子により画像を形成するガラス原板の情報量は膨大である。しかし、ガラス原板と鶏卵紙を密着させて同寸の焼付写真を製作していた当時には、その膨大な情報を引き出すことができておらず、現代のデジタル技術を駆使することではじめて高精細な画像情報を再現することが可能となったのである。

### 2. 研究の目的

従来の焼付写真を基にした研究だけでは、作者や制作年の特定、ガラス原板写真からの焼き出し時に失われていた細部の表現や製作や伝来に関する情報を得ることは不可能であった。出所・伝来が確かなガラス原板写真からの高精細画像情報と、「もの」としてのガラス原板写真情報により比較検証し、オリジナルのガラス原板による厳密な写真史料の比定を行う方法論を確立し、より信憑性の高い歴史資料としての古写真の定義を明確にすることが本研究の目的となる。

### 3. 研究の方法

工業製品となる以前の手作り時代のガラス原板写真には「もの」としての情報が残されている。例えば、写真家により異なる現像後の画像色、ガラス周辺部の液だれ、画像への修整痕、整理番号など、写真家の個性や手業を見ることができ、歴史資料として写真の信憑性に関わる様々な問題が明らかとなった。さらに、先行研究から、19世紀には写真家間でガラス原板の譲渡や売買が行われ、本当の撮影者や撮影日時、撮影目的に関係なくイメージの再現が繰り返されていた事が判明している。それは公式の外交使節団においても同様であった。1859年にイギリス領事館員により長崎の英国領事館開設の記録として撮影されたガラス原板が、10年後にオーストリア＝ハンガリー帝国遠征隊の日本滞在の報告として利用され、更に数年後にはオーストリア＝ハンガリー帝国の焼付写真として大英博物館に収蔵されていた。ひとつのイメージとしてガラス原板が繰り返し用いられることにより、西洋における幕末明治初期の日本イメージが定着していった片鱗を先行研究から掴むことができている。こうした解明は、これまでの古写真研究のあり方を大きく見直す論点を提示しており、その独自性と創造性は際立っていると自負している。本研究においては、この観点をさらに発展させ、史料学的な検証をおこなう。

また、実際にガラス原板写真(コロジオンネガ)による撮影再現実験をおこない、当時の技法を実践的に確認しつつ研究を推し進める。本研究では、さらに発展させ、高精細デジタルデータから特殊製版技術により薄いフィルムネガを作製し、自製した鶏卵紙とで密着焼き付けをおこない、19世紀に制作された当時の鶏卵紙写真の復元を試みる。これにより19世紀に人々が見ていた写真の再現性を確認し、現代のデジタル技術で引き出された高精細画像との差異を検証すると同時に、劣化により画像が薄くなったオリジナルの焼付写真を補うものとして展示等に使用し、古写真の利活用と保存の新たな方向性を示す。

### 4. 研究成果

1) 研究期間の初年次(2019年度)には、本研究の目的である、これまで蓄積してきた研究成果の公開・発信について主に取り組んだ。一方で、初年度後半の3月に予定していた海外調査は、コロナウィルスの感染拡大により急遽中止となった。以後、本研究期間はコロナ禍でのものとなり、幾度となく計画の変更を余儀なくされたが、以下の調査研究と研究成果の公開を行った。

展示会の開催：港区立郷土歴史館で開催した特別展『日澳修好150周年記念「日本・オーストリア国交のはじまり - 写真家が見た明治初期日本の姿 - 』(港区教育委員会主催・史料編纂所共催・オーストリア大使館協力)に参画し、展示企画の準備、図録執筆、展示パネル製作、写真史料の展示、講演会講師をつとめ着実に推し進めた。

一般への成果の発信：NHK・BS8K「ここまで見える！8Kでよみがえる幕末・明治の日本」、民放・BS11「歴史科学捜査班」古写真で分析！幕末明治の東海道驚きの姿」の番組制作に協力し、広く一般への研究成果の発信をはかった。

目録作成と翻刻翻訳：幕末開港時にロンドンのネグレッティー&ザンブラ社の特派員として来日し、その後も数度日本に滞在したスイス人写真家ピエール・ロシエが、江戸や長崎で撮影したガラス原板コレクション、1866年に日伊修好通商条約締結のために来日したイタリア使節団が収集した日本関係写真史料について、目録化とテキスト史料の翻刻翻訳作業を進めた。

高精細デジタル画像を利用した鶏卵紙プリント作成：高精細デジタルカメラでガラス原板ネ

ガを透過光撮影して得た高精細デジタルデータと刷版作製技術を応用して、新たに 10 ミクロンのランダムドットで出力した薄いネガフィルムネガを作製。このネガフィルムを基にして、自製した鶏卵紙とで密着焼き付けを行い、19 世紀に制作された鶏卵紙写真の復元を試みた。これにより 19 世紀に人々が見ていた写真の再現性を確認し、現代のデジタル技術で引き出された高精細画像との差異を検証すると同時に、オリジナルの焼付写真が無いもの、劣化により画像が薄くなったオリジナルの焼付写真を補うものとして、『日壇修好 150 周年記念「日本・オーストリア国交のはじまり - 写真家が見た明治初期日本の姿 - 』(港区立歴史館)での展示に使用し、古写真の利活用と保存の新たな方向性を示した。

国際研究集会の開催：東京大学史料編纂所附属画像史料解析センターとの共催により、セント・アンドリュース大学(スコットランド)のルーク・ガルトラン(Luke Gartlan, Senior Lecturer)氏を招請し、写真史料をめぐる国際研究集会「在外写真史料の研究と歴史学」を開催した。

2) 研究期間の 2 年次(2020 年度)は、コロナウィルスの感染拡大の影響により、当初予定していた海外の機関に点在する幕末明治初期写真史料の調査が困難となった。そのため国内に所在する写真原板に対する調査を中心にして、主に以下の研究と成果の公表をおこなった。

大阪適塾関係古写真の調査：シーボルト弟子であった岡研介の家系に伝わる「岡家所蔵肖像写真」の調査とデジタル撮影をおこなった。

遣米使節関係古写真の調査：本島・塩飽勤番所跡資料館にて、同館に保管されている、本島出身の咸臨丸乗組員らがサンフランシスコで撮影し持ち帰ったコロジオンガラス原板写真について調査・撮影をおこなった。

横山松三郎関係写真史料調査：箱館・高田屋伝来の横山松三郎・松蔵兄弟の古写真史料(個人蔵)の調査および目録整備をおこなった。

被爆関係写真史料の調査：中国新聞社所蔵の松重美人撮影被爆関係ガラス原板とネガフィルム、広島市平和記念資料館所蔵の被爆関係写真ガラス原板とネガフィルムの調査・撮影をおこなった。また、東京都写真美術館保存科学室の協力を得て、1945 年 8 月 6 日撮影の松重美人撮影ネガフィルムの組成調査をおこなった。2021 年 3 月、松重美人のネガフィルムは広島市の重要文化財に指定された。

文研史料の収集と翻訳：海外調査の再開に備え、調査対象と関連する欧文の論文・報告などを収集した。明治初期に日本関係者に対して写真技術を教えたイタリア人写真家カルロ・ナヤの特殊技法プリントの修理報告書など、特に重要と考えられるものについて翻訳作業を進めた。

3) 研究最終年度(2021 年度)も引き続きコロナウィルスの感染拡大の影響を受け、当初予定していた海外機関に点在する幕末明治初期写真史料の調査、国内に所在する写真原板を対象にした高精細デジタル画像化のための現地調査などをおこなうことが困難な状況となった。そのため、当初の計画を変更せざるを得なかったが、国内での活動を中心にして、主に以下の研究と成果の公表をおこなった。

日本関係ガラス乾板調査：新たにアメリカ国内在住の個人より寄贈を受けた、1876 年のフィラデルフィア万博に参加した日本人が現地に持ち込んだ日本関係ガラス原板写真の目録作成と原板の状態調査をおこなった。同時に高精細デジタルカメラによるデジタル画像化をはかったうえで保存処置を施した。

鶏卵紙の復元調査：高知県立紙産業技術センターに出張し、19 世紀の鶏卵紙プリント原紙の組成分析と復元紙製作に関する調査打ち合わせをおこなった。

横山松三郎関係写真史料調査：箱館・高田屋伝来の横山松三郎・松蔵兄弟の古写真史料(個人蔵)のうち、写真油絵の制作工程についての調査をおこない、写真油絵の復元に着手した。

菊池海荘関係古写真史料の展示：菊池海荘の出身地である和歌山県湯浅町の地域交流センター(2022 年 3 月 21 日)において、デジタル化した画像データを基に菊池家旧蔵の古写真資料の展示および講演「菊池海荘と菊池(堀内)家史料」を研究分担者の保谷徹がおこない、研究の成果を一般に公表した。

研究成果の公開：これまでの研究成果から「高精細画像から紐解く幕末明治初期の日本」と題する講演を愛媛県歴史文化博物館の多目的ホール(2021 年 11 月 21 日)において、研究代表者の谷昭佳がおこなった。

研究成果の公開：NHKBS「フランスで新発見!幕末ニッポンの秘宝 将軍からの贈り物」の放映に対して、ガラス原板写真から製作したデジタル画像データの提供をおこなうなどし、広く一般への研究の発信をはかった。

4) 一度目の研究期間延長となった 2021 年度は、コロナウィルスの感染拡大の影響を受けつつも、前半は国内での幕末明治初期写真史料の調査研究に取り組むことができた。また後半には、当初は 2019 年度に計画していたが実行が困難となっていた海外所在の日本関係古写真史料の現地調査を再開した。主な調査研究と成果の公表は、以下であった。

彩色写真技法「写真油絵」の復元調査：横山松三郎の弟子の小豆澤亮一が明治 18 年に特許を取得し僅か数年間だけ用いられた、和紙を用いた日本独自の技法である紙製の「写真油絵」の復元に取り組んだ。現存する作品の表面には、ひび割れなどの劣化が目立ち、保存修理法の確立が急がれている。僅か 6 行の特許文面を読み解き、さらに文化財修復工房の技術者の協力を得て再現した失われた技法の実際について、イタリアで開催された国際カンファレン

ス「Colour Photography and Film, 2nd edition」において報告し、国際的に成果を公表した。

本山家伝来古写真調査：長崎本石灰町乙名であった本山家伝来の古写真資料群の調査および撮影・目録整備（写真 101 点、関連附属品 4 件 5 点）・保存処置をおこなった。調査で得られた知見および目録と画像は、長崎市長崎学研究所紀要『長崎学』第 7 号に掲載して、一般に公表した。

木村芥舟関係写真資料調査：幕末期に幕府の要職を歴任した木村芥舟関係写真資料について、高精細デジタル撮影を中心とする調査研究をおこなった。

イタリア所在日本関係古写真調査：文明博物館および軍事地理研究所に出張し、幕末の日本関係古写真について調査および画像収集をおこなった。成果の一部は「海外所在日本関係古写真史料の調査研究の概要-在イタリア、在オランダを中心に-」『国際研究集会「海外所在日本関係古写真の史料学研究」』のなかで報告した。

国際研究集会の開催：『国際研究集会「海外所在日本関係古写真の史料学研究」』JSPS 科研費（JP19K00934）を東京大学史料編纂所附属画像史料解析センターと共催で開催した。

5) 2 度目の研究期間延長となった 2023 年度は、前年度までに完了することが出来なかった課題について取り組んだ。主な研究活動の内容と成果は以下であった。

伊賀上野城関係写真史料調査：伊賀市上野図書館にて上野城関係古写真調査および高精細撮影をおこなった。これにより劣化したガラス湿板写真ネガ原板から、明治初期の伊賀上野城の姿を高精細画像として再現することが可能となった。この調査成果は新聞・テレビニュース等で広く一般に向けて報道された。

中嶋待乳関係ガラス原板写真調査：海に見える杜美術館にて、同館所蔵中嶋待乳関係古写真コレクションの調査および高精細撮影をおこなった。中嶋待乳のガラス乾板ネガ原板を精緻に観察することにより、明治初期の要人の肖像写真プリントは、ネガ原板の合成と修整による加工から創出されたイメージであることが鮮明となった。この研究成果は、谷昭佳「中嶋待乳関係古写真調査の概要 - 海に見える杜美術館所蔵コレクション - 」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』102 号（東京大学史料編纂所、2023.10）に掲載した。

木村芥舟関係写真史料調査：幕末期に幕府の要職を歴任した木村芥舟の写真関係資料について、技法識別および高精細撮影を前年度に引き続き資料所蔵機関と協力して推し進めた。

目録整備作業：研究成果の公開に向けて、壬申検査関係古写真画像データ整理および目録整備をおこなった。

整理保存・目録作成：歴史学者・辻善之助と辻達也関係未整理古写真資料の整理保存と目録作成作業等に取り組んだ。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 谷昭佳	4. 巻 102
2. 論文標題 中嶋待乳関係古写真調査の概要 海の見える杜美術館所蔵コレクション	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 19-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷昭佳	4. 巻 11
2. 論文標題 オーストリア = ハンガリー 帝国東アジア遠征隊古写真資料集の編纂	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学会議叢書11	6. 最初と最後の頁 399-427
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷昭佳	4. 巻 101
2. 論文標題 失われた技法「写真油絵」の復元的研究 - 紙盤二製スル法の再現 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiyoshi Tani	4. 巻 2
2. 論文標題 Oil photography: A color-photographic technique, with no discoloration, unique to Japan in the nineteenth century	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Colour Photography and Film: Sharing knowledge of analysis, preservation, conservation, migration of analogue and digital materials - 2022: Conference Proceedings (peer reviewed journal), 2nd edition.	6. 最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.23738/RCASB.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷 昭佳	4. 巻 7
2. 論文標題 長崎本石灰町乙名本山人家伝来古写真史料の概要	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 長崎市長崎学研究所紀要7号『長崎学』	6. 最初と最後の頁 66-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷昭佳	4. 巻 1
2. 論文標題 ウィーン万国博覧会と国家事業としての写真制作	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 1873年ウィーン万国博覧会 日境からみた明治日本の姿	6. 最初と最後の頁 213-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷昭佳	4. 巻 91
2. 論文標題 歴史資料・写真フィルム原板の史料学 松重美人の被爆写真ネガフィルム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 5 - 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷昭佳	4. 巻 31143-7280
2. 論文標題 ブルガー&モーザーのガラス原板コレクションに見る幕末・明治初期写真	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日境修好150周年記念 日本・オーストリア国交のはじまり 写真家が見た明治初期日本の姿	6. 最初と最後の頁 98-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷昭佳	4. 巻 31143-7280
2. 論文標題 手作り時代の写真技法ーコロジオン写真法によるガラス原板ネガー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日壤修好150周年記念 日本・オーストリア国交のはじまり 写真家が見た明治初期日本の姿	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 谷昭佳、宇都宮正紀
2. 発表標題 失われた技法「写真油絵」の復元的研究 - 紙盤二製スル法の再現 -
3. 学会等名 日本写真芸術学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akiyoshi Tani
2. 発表標題 Oil photography: A color-photographic technique, with no discoloration, unique to Japan in the nineteenth century
3. 学会等名 2nd Conference on Colour Photography and Film, Gruppo del Colore Associazione Italiana Colore. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷 昭佳
2. 発表標題 オーストリア＝ハンガリー帝国東アジア遠征隊古写真資料集の編纂
3. 学会等名 第7回東アジア歴史資料編纂機関協議会主催『東アジア歴史資料編纂の伝統と現代化』大韓民国国史編纂委員会（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷 昭佳
2. 発表標題 海外所在日本関係古写真史料の調査研究の概要-在イタリア、在オランダを中心に-
3. 学会等名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター・東京大学史料編纂所古写真研究プロジェクト・JSPS科研費（JP19K00934）共催『国際研究集会「海外所在日本関係古写真の史料学研究」』
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷 昭佳
2. 発表標題 幕末明治期を中心とする古写真の史料学的研究-「もの」「こと」「とき」による検証
3. 学会等名 長崎大学地域文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷昭佳
2. 発表標題 歴史資料・写真フィルム原板の史料学 - 松重美人の被爆写真ネガフィルム -
3. 学会等名 日本写真芸術学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 保谷徹
2. 発表標題 古写真にみる幕末・明治初期の日本 ブルガー＆モーザーのガラス原板コレクション
3. 学会等名 平出歴史大学（招待講演）
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 谷昭佳
2. 発表標題 歴史資料・写真フィルム原板の史料学－松重美人の被爆写真ネガフィルム－
3. 学会等名 日本写真芸術学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷昭佳
2. 発表標題 ガラス板写真の保存・利活用と憲政資料
3. 学会等名 国立国会図書館憲政資料室（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷昭佳
2. 発表標題 Gelatin Dry-Plate Negative as Cultural Assets: The History of Research Retold by Photographs
3. 学会等名 2019 International photograph conservation conference, National Taiwan Museum of Fine Arts. (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷昭佳
2. 発表標題 Understanding the Historical Possibilities of Photos and Problems with their Conservation
3. 学会等名 New Trends in the Study of Medieval Japanese Documents, Princeton University.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷昭佳
2. 発表標題 オーストリア=ハンガリー帝国遠征隊(1869)が収集した東アジアのコロジオン湿板写真 高精細画像で甦る150年前の東アジア
3. 学会等名 台湾國立台南大學動畫媒體設計研究所國際写真講座(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷昭佳
2. 発表標題 在外日本関係古写真に見る日本イメージの源流
3. 学会等名 日壇修好150周年記念関連プログラム「写真で紐解く明治初期日本、港区」(港区立郷土歴史館)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷昭佳
2. 発表標題 写真による幕末維新期の日本イメージの形成 英・仏・独・瑞・伊・奥・露のオリジナルコレクションから
3. 学会等名 写真史料をめぐる国際研究集会「在外写真史料の研究と歴史学」(東京大学史料編纂所)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷昭佳
2. 発表標題 モノとして鎌倉芳太郎の御後絵写真を読むために 御後絵の復元—絵画復元と写真資料
3. 学会等名 絵画の再生—改装・復元・復元根拠(早稲田大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保谷徹
2. 発表標題 高精細画像でみる幕末・明治初期日本 ブルガー & モーザーのガラス原板コレクション
3. 学会等名 写真史料をめぐる国際研究集会「在外写真史料の研究と歴史学」(東京大学史料編纂所)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保谷徹
2. 発表標題 ガラス原板写真から見る江戸・東京と港区の風景 ブルガー & モーザーのガラス原板コレクション
3. 学会等名 日壇修好150周年記念関連プログラム「写真で紐解く明治初期日本、港区」(港区立郷土歴史館)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保谷徹
2. 発表標題 写真で甦る幕末・明治初期の江戸・東京の原風景 ブルガー & モーザーのガラス原板コレクション
3. 学会等名 新宿歴史博物館江戸城講座(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保谷徹
2. 発表標題 古写真から見る幕末・明治初期の神奈川 ブルガー & モーザーのガラス原板コレクション
3. 学会等名 秦野歴史おこしの会定期講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 大韓民国国史編纂委員会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大韓民国国史編纂委員会	5. 総ページ数 546
3. 書名 学術会議叢書11 第7回東亜細亜 史料研究編纂機関 国際学術会議 東アジア歴史資料編纂の伝統と現代化	

1. 著者名 Barbara Cattaneo, Filippo Cherubini, Marcello Picollo	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Gruppo del Colore -Associazione Italiana Colore	5. 総ページ数 193
3. 書名 2nd Edition of the Conference "Colour Photography and Film: analysis, preservation, and conservation of analogue and digital materials" 2022, Research Culture And Science Books series (RCASB), Vol. 008, ISSN: 2785-115X	

1. 著者名 ペーター・パンツァー、沓澤宣賢、宮田奈奈	4. 発行年 2022年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 1873年ウィーン万国博覧会 日奥からみた明治日本の姿	

1. 著者名 港区立郷土歴史館	4. 発行年 2019年
2. 出版社 港区教育委員会	5. 総ページ数 112
3. 書名 日奥修好150周年記念 日本・オーストリア国交のはじまり 写真家が見た明治初期日本の姿	

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

デジタル技術で明らかになる日本の原風景  
[https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508\\_00149.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508_00149.html)  
 国際研究集会「在外写真史料の研究と歴史学」を開催  
[https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/z0206\\_00004.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/z0206_00004.html)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	保谷 徹  (HOYA TORU)  (60195518)	東京大学・史料編纂所・名誉教授   (12601)	
研究分担者	箱石 大  (HAKOISHI HIROSHI)  (60251477)	東京大学・史料編纂所・教授   (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 海外所在日本関係古写真の史料学研究	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 写真史料をめぐる国際研究集会「在外写真史料の研究と歴史学」	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
イタリア	Museo delle Civiltà	Istituto Geografico Militare	